

救急処置実習 C-II		実習	准教授 古川 慎太郎 講師 田口 弘茂
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	13391405

1. 授業のねらい・概要

消防機関における臨地実習を通じて、出場指令から出場までの対応をはじめ、緊急走行、現場到着時の安全管理、各種救急事故現場での救急隊員の活動、指示要請等の救急無線運用、傷病者・家族関係者との接遇、医療機関選定及び医師への引き継ぎ等の対応要領など、救急業務の専門性について理解するとともに、事前事後教養を通じて救急活動に必要な知識・技術の修得を図る。また、自らが目指す救急救命士像を考えるきっかけとする。

2. 授業の進め方

消防実習に臨むにあたり、事前に基礎知識を修得するための座学・実習を行う。これにより消防実習に参加する上で最低限の能力を有していると認めた学生に限り、実習先の消防機関を割り当て臨地実習を行う。

3. 授業計画

1. 実習ガイダンス 実習に臨むにあたり、救急隊による基本的活動（救急活動の流れ、119番通報受信から医療機関収容、救急無線通信要領等）について理解を深める。	16. 心肺機能停止傷病者（小児） 活動要領及びCPR着手判断・CPR実施要領について理解を深める。
2. 救急活動の実態 救急隊による、救急活動の原則、P A連携活動について理解を深める。	17. 心肺機能停止傷病者（成人） 活動要領及び除細動・特定行為（LM・LT等）・指示要請・救命士報告について理解を深める。
3. 接遇 傷病者等への接遇について理解を深める。	18. 高層階での心肺機能停止傷病者 活動要領及び除細動・特定行為（静脈路確保・薬剤投与）・指示要請・救命士報告・P A連携活動について理解を深める。
4. 記録の作成 救急隊による、救急活動記録票の記載要領について理解を深める。	19. 狭隘場所での心肺機能停止傷病者 活動要領及び除細動・特定行為（気管挿管・静脈路確保・薬剤投与）・指示要請・救命士報告・P A連携・関係者の活用について理解を深める。
5. 搬送手段 メインストレッチャー・サブストレッチャー・布担架の取り扱い要領について理解を深める。	20. 自宅浴槽内での心肺機能停止傷病者 活動要領及び特定行為（気管挿管・静脈路確保・薬剤投与）・指示要請・救命士報告・応援要請・関係者の活用について理解を深める。
6. 資器材 創傷保護用資器材・骨折固定用資器材・全身固定資器材・呼吸資器材の取り扱いについて理解を深める。	21. 救急現場におけるトラブル 出場途上・現場到着時・医療機関選定・器物損壊・搬送途上の対応要領について理解を深める。
7. 応急処置 気道異物・呼吸機能停止・心肺機能停止・回復兆候について理解を深める。	22. 多数傷病者発生現場 活動要領及び最先到着救急隊の任務・応援隊との連携活動・トリアージ・部隊運用、活動体制、指揮本部・救急指揮所・現場救護所の運営について理解を深める。
8. 活動障害（狭隘・階段等） 心肺機能停止傷病者に対する活動要領及び応援要請要領について理解を深める。	23. 救急出場 事故の概要について理解を深める。
9. 呼吸困難傷病者 状況聴取・観察判断（重症度、緊急度）・救急処置・搬送時の留意点について理解を深める。	24. 救急出場 感染防止について理解を深める。
10. 循環系疾患傷病者 状況聴取・観察判断（重症度、緊急度）・救急処置・搬送時の留意点について理解を深める。	25. 救急出場 救急資器材について理解を深める。
11. 気道閉塞（異物）傷病者 喉頭鏡・マギール鉗子による異物除去・気管挿管・	26. 救急出場

指示要領・救命士報告要領について理解を深める。 12. 交通外傷（車両閉じ込め）傷病者 活動要領及び応援要請・交通事故現場の安全管理について理解を深める。 13. 二輪車交通外傷 活動要領及び応援要請・交通事故現場の安全管理について理解を深める。 14. 在宅医療処置継続傷病者 活動要領及び状況聴取・観察判断（重症度、緊急度）・救急処置・搬送時の留意点について理解を深める。 15. 分娩介助と新生児仮死 活動要領及び状況聴取・観察判断（重症度、緊急度）・救急処置・搬送時の留意点について理解を深める。	安全管理について理解を深める。 27. 救急出場 多職種連携について理解を深める。 28. 救急出場 早期傷病者搬送について理解を深める。 29. 事例検討 実習でどんな事例を体験したかを振り返り、実習で学んだことをまとめる。 30. 発表会 事例の整理やプレゼンテーションの作成を行い、発表を行う。
---	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

カリキュラムに応じた予習・復習内容（課題レポート、小テストの見直し、ノート整理）を適宜提示する。これには週6時間以上を要する。実技については訓練し修得する。これには相当数の時間を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- 1) 小テスト
誤った問題についてはレポートにまとめ、次回の授業時に提出しフィードバックを行う。
- 2) 課題
 - a) 教員は学生が提出した課題を評価し、フィードバックを行う。
 - b) 課題で重要な部分は、次の授業始めにその内容を口頭で説明する。
- 3) 実技試験
 - a) フィードバックは、実技不適部分を中心に行う。
 - b) 学生から質問された疑問点は、個別に回答する。
- 4) 筆記試験
 - a) 解答は口頭で発表する。
 - b) 解説は不正解問題を中心に行う。

6. 到達目標

- 1) 緊急車両の走行について理解を深める。
- 2) 指令本部との無線連絡について理解を深める。
- 3) 傷病者及び家族関係者とのコミュニケーションについて理解を深める。
- 4) 救急救命士に要求される観察・判断・救急処置・搬送の連携について理解を深める。

7. 成績評価の方法・基準

- 1) 成績評価の基準
実習に取り組む姿勢及び患者との接遇が適切に出来ている。また、経験した症例について理解している。
- 2) 成績評価の方法
 - a) 消防本部による評価（40%）
 - b) 症例レポート（40%）
 - c) 症例発表会の内容（20%）

8. テキスト・参考文献

改訂第11版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）
5訂版 救急資器材管理マニュアル（東京法令出版）

9. 受講上の留意事項

- 1) 基本的に、当科目履修前に事前履修しておく科目として、「救急処置演習 A-I」,「蘇生処置演習」,「救急処置演習 A-II」,「外傷救急処置演習」,「解剖学」,「生理学」,「生化学」,「救急処置実習 C-I」とする。
- 1) 実習を受けるにあたり必要な書類・検査を実施し、期限内に証明書を提出した学生のみ履修できる。また、実習前に行われるガイダンスの内容を十分理解した上で、「2. 授業の進め方」に示す事前教養を経た学生のみが、消防機関での実習を受けられる。ガイダンスで示す事項等を遵守できない場合、または事前教養で不適と認められた学生については、消防機関における実習は認めない。なお、消防機関における所要の実習を受けることができなかった学生については、単位認定を行わない。
- 3) 実習先消防機関より、実習態度不良や実習継続不能等についての連絡があった場合には、所要の調査を行い、実習中止措置をとるとともに単位認定を行わない。実習修了後であっても同様とする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本演習は、公的機関等における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。